使用上のご注意

走行上のご注意

⚠注意	・車いすは道路交通法上、歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。 ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。 ・溝や踏切の線路による落輪、キャスタのはさみ込みには充分注意してください。 ・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で停車せず通過してください。 ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。 ・下り坂ではハンドリムを使ってスピードを落とし、必ず前向きで走行してください。不安な場合は、他の人に助けてもらってください。

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

点検の結果、作動不良や違和感を感じたときは、すぐに使用を止め、お買上げの販売店または、最寄りの弊社支店、営業所へご連絡ください。

● 駆動輪の空気圧の確認

⚠注意	駆動輪の空気圧が少ないと、ブレーキがかからない場合や、かかりが悪くなる場合がありますので、空気圧には十分注意してください。

適正空気圧：7.0kgf/cm²

● 駐車用ブレーキの作動確認

ブレーキレバーを操作し、ブレーキがかかることを確認してください。

● 各調節部分が固定されていることの確認

各調節部分をチェックし、確実に固定されていることを確認してください。

● 消耗品、交換部品の確認

⚠注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。
新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。

消耗品・交換部品

品　名	交　換　時　期
駆動輪	タイヤの表面に溝がなくなったとき。
キャスタ	表面の摩耗が著しいとき。しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。 面ファスナーの接着が弱くなったとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を取り除いてください。
・水などがかかった場合は、乾いた布で水分を取り除いてください。
・錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

● アームサポート、グリップ等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

⚠注意	シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。

● シートのお手入れ

・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、乾かしてご使用ください。
・面ファスナーに糸くず、汚れ等が付いた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● 保管・収納について

錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

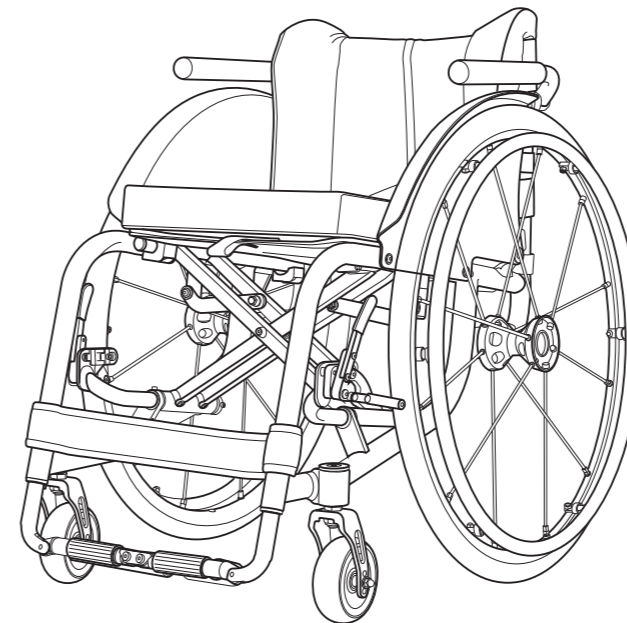
製造元

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号
TEL 052-694-0333　FAX 052-694-0800

1404-002

ノーヴァ　オルタナ　オルタナ　アール

NOVA alterna / alterna_R

取扱説明書

はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。
ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。

目　次

※本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

本製品について

本製品は、標準機能の他に、必要に応じてお選びいただけるオプション機能を用意しております。オプション機能は本製品をご注文時にお選びいただきますので、お車ごとに装備内容が異なります。
本取扱説明書では、オプション機能についての記載内容に オプション マークを付けています。ご自分の車いすに装備されたオプション機能をご確認の上、必要な箇所をお読みください。

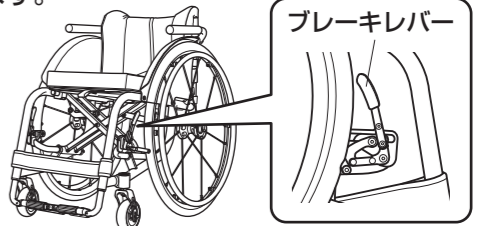
安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

表示	意味
⚠危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】

記号	意味
⚠	警告・注意を促す内容があることを告げるものです。
⊘	禁止の行為であることを告げるものです。
❗	行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

⚠危険

スピードを出さないでください。
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

下り坂ではハンドリムを使ってスピードを落とし、ゆっくり走行してください。

自走用であっても自力で操作不可能な坂道では、介助者を伴ってください。

駆動輪車軸の前後位置は、車いすの重心バランスに重大な影響を及ぼします。
不安定な位置での使用は、転倒のリスクが増え、重篤な事故につながる恐れがあります。ご使用者の障害や操作スキルに合わせ、適正な位置を選択してください。

乗車したまま、階段を下りたりしないでください。

⚠警告

乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。
駆動輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

乗り降りは、必ず平坦なところで行ってください。

乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキを掛けてください。
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

⚠警告

[着脱式車輪をご使用の場合]
駆動輪が抜けないようにしっかりとロックしてご使用ください。
駆動輪の差し込みが不十分な場合、車軸のロック機構が働かず、走行中に外れて事故につながる危険性があります。
車いすをお使いになる際は、駆動輪の中央を手で引っ張っても抜けないか確認してからご使用ください。

前かがみの状態など、車いす前方向へのみ体重をかけるような状況は、座面後方が浮き上がり前方へ転倒する恐れがあります。

車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

各部を調整する場合は平坦な場所で行なってください。
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。

[セパレートフットサポートをご使用の場合]
乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
けがをする恐れがあります。

駆動輪の前後位置調節は、販売店へご依頼ください。

乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。
レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。

使用者を乗せたまま車いすを持ち上げるときは、必ずブレーキをかけて駆動輪とフレームを持ってください。
駆動輪とフレーム以外の部品を持つと、使用者の重みで部品が外れて使用者が転倒または落下し、事故やけがにつながる恐れがあります。

タイヤの空気圧低下に注意し、必要な場合は補充してください。
タイヤの空気圧が低下すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。また、空気圧が低下した状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。

手押しハンドル [オプション] や、バックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

⚠注意

この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。

走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。

走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。

操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

折りたたんだ車いすを開く時に、シートパイプを握って押し下げないでください。
手をはさみ危険です。

使用する前に駆動輪・キャスタ・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。

暖房器具にタイヤを近づけないでください。
タイヤの空気が膨張し、大きな音をたててパンクすることがあります。破損した場合は、乗車をやめて必ず修理してください。

段差のあるところを昇り降りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。
車いすの破損や故障の原因となります。

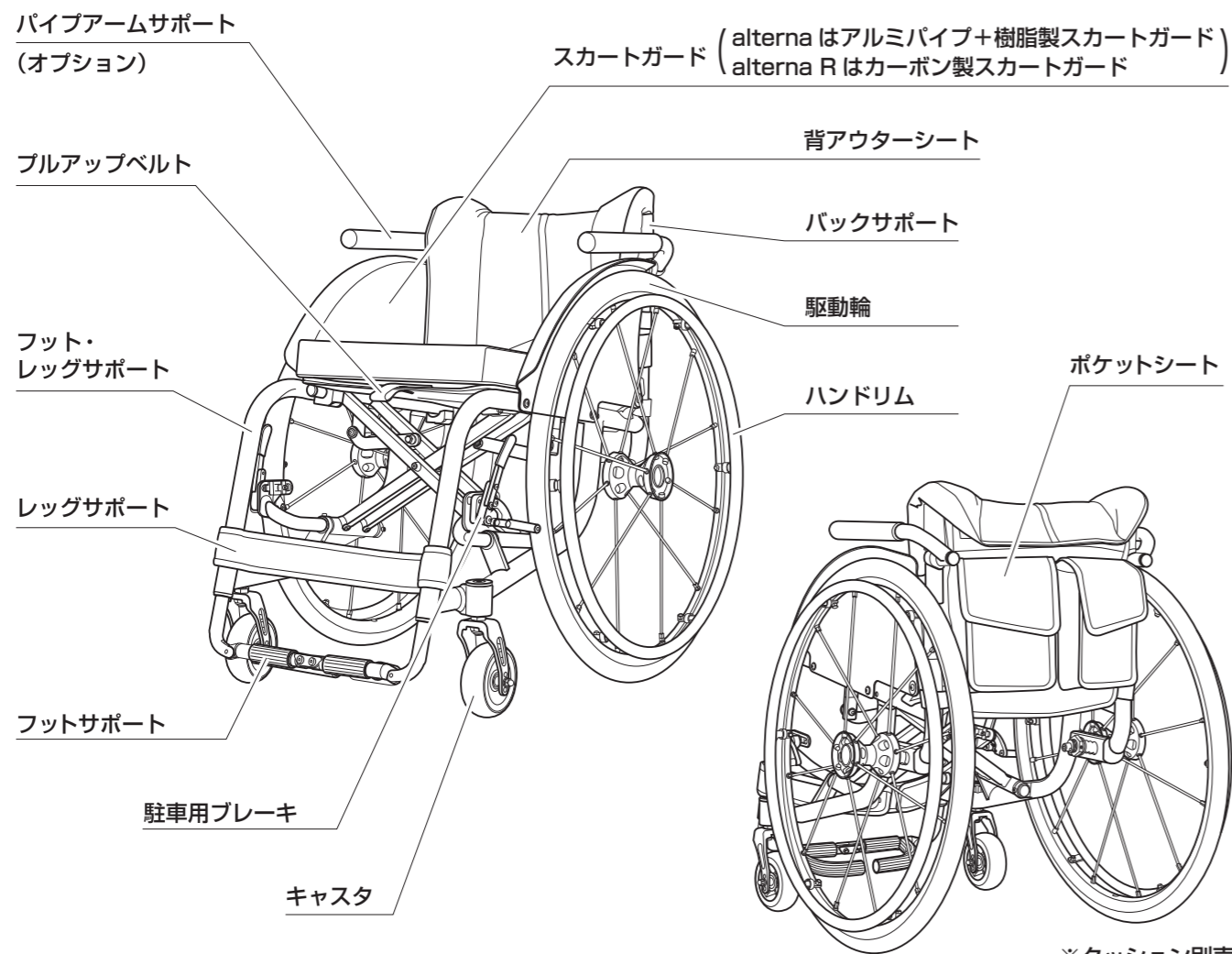
車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに行ってください。
車いすの破損や故障の原因となります。

シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。

車いすをたたむときは、シートパイプを握らないでください。
手をはさみ危険です。

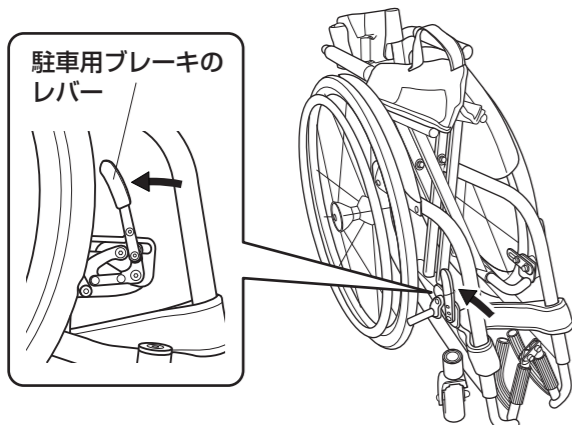
各部のなまえ

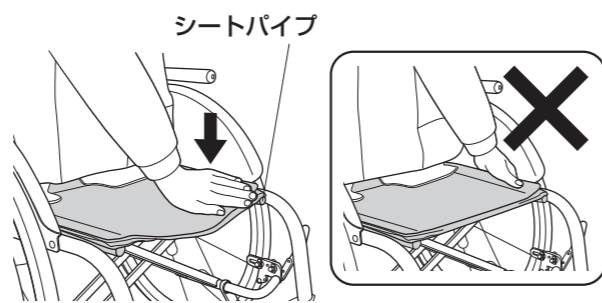
⚠注意　各部の調節は販売店へご依頼ください。

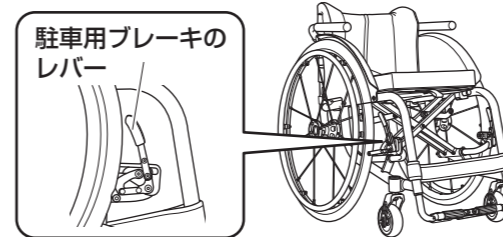
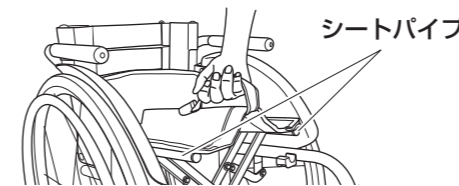
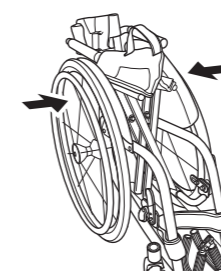
※クッション別売り

使いかた

車いすの開きかた

⚠注意　シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。

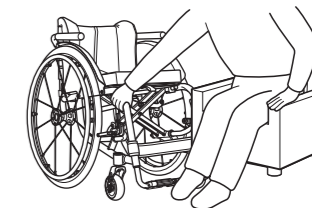
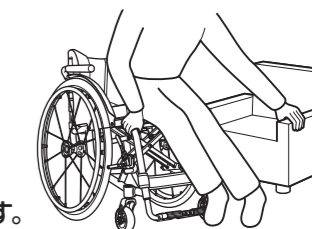
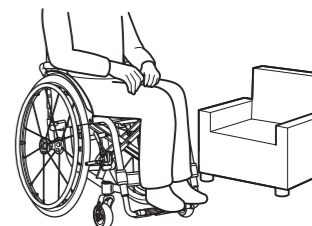
1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

2 シートパイプを手の平で押し下げます。

＊シートパイプを握らないでください。
＊片側の車輪を少し浮かせた状態で開くと、スムーズに開きます。

車いすのたたみかた

1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

2 座シートのプルアップベルトを引き上げ、シートパイプを引き寄せます。

3 車輪を両側から押し、座シートを折りたたみます。

乗り降りのしかた　対マヒ使用者の場合

⚠警告　乗り降り時は、必ず駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。

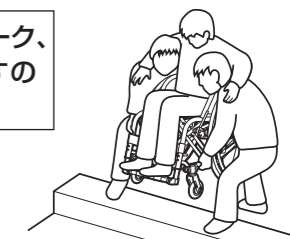
● 乗りかた

1 車いすを自分の真横によせます。

2 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

3 車いすをしっかりと持ち、腰を浮かせてゆっくり乗り移ります。

4 両足をフットサポートに乗せます。

● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行ってください。

車いすの持ち上げかた

⚠警告　車いすを持ち上げる場合は必ずフレームを持ってください。駆動輪のスポーク、パイプアームサポート、押し手グリップ等を持って持ち上げると、車いすの破損や落下、転倒による事故につながる恐れがあります。

車いすに乗ったまま持ち上げる場合

車いすに乗ったまま持ち上げるときは二人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持ち上げるようにしてください。

＊使用者の両腕をそれぞれの介助者の肩にかけると、持ち上げる際の介助者の負担が軽くなります。

駆動輪の取り外し・取り付け　着脱式車輪をご使用の場合

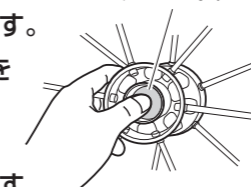
ワンタッチで駆動輪を外せるため、コンパクトに収納、持ち運びができます。

【取り外しかた】

プッシュボタン

1 駐車用ブレーキを解除します。

2 車軸中心のプッシュボタンを押しながら、車軸ごと駆動輪を引き抜きます。

3 反対側も同様に取り外します。

＊車軸に差し込まれたスペーサーをなくさないように注意してください。

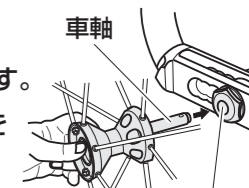
【取り付けかた】

車軸

車軸受けの軸穴

1 駐車用ブレーキを解除します。

2 車軸中心のプッシュボタンを押しながら、車軸を車軸受けに差し込みます。

3 反対側も同様に取り付けます。

＊取付後は、駆動輪の中央を手で引っ張っても抜けないか確認してください。

⚠警告　駆動輪が抜けないようにしっかりとロックされているのを確認してからご使用ください。駆動輪の差し込みが不十分な場合、車軸のロック機構が働かず、走行中に外れて事故につながる危険性があります。

各部の調節のしかた

⚠警告	各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行ってください。

ブレーキの調節

駐車用ブレーキのかかり具合が悪いと、立ち上がり時やベッドなどに移るときに大変危険です。
ブレーキは随時チェックし、下記の方法に従って調節してください。

1 タイヤの空気圧が適正か確認します。

2 ブレーキをかけた状態で駆動輪を手で回します。
手で回るようなら、ブレーキのかかりが悪いので
以下の方法で調節します。

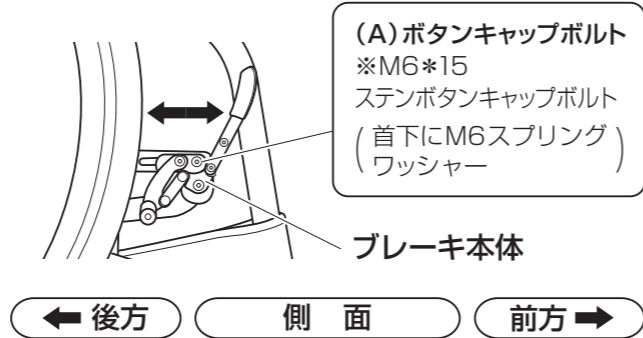
3 (A)ボタンキャップボルトを六角レンチを使用して
ゆるめます。
＊フレーム内側の(B)キャップボルトはゆるめないでください。
(A)のボタンキャップボルトをゆるめるだけで調節が可能です。

⬅後方　側　面　前方➡

4 ブレーキ本体を前後にスライドさせ、適切な位置で
ボタンキャップボルトを軽く締め、仮固定します。

5 ブレーキのかかり具合を確認します。
かかりが良ければ、ボタンキャップボルトを増し締めして固定します。
かかりが悪ければ、手順4～5を繰り返します。

6 同様に、反対側のブレーキの確認・調節をします。

⬅前方　フレーム内側　後方➡

駆動輪の前後位置調節

駆動輪の位置を前寄りに移動すると、小回りがきくなど車いすの動きが軽快になり扱いやすくなります。
その反面、重心が後ろに移動するため転倒しやすくなりますのでご注意ください。

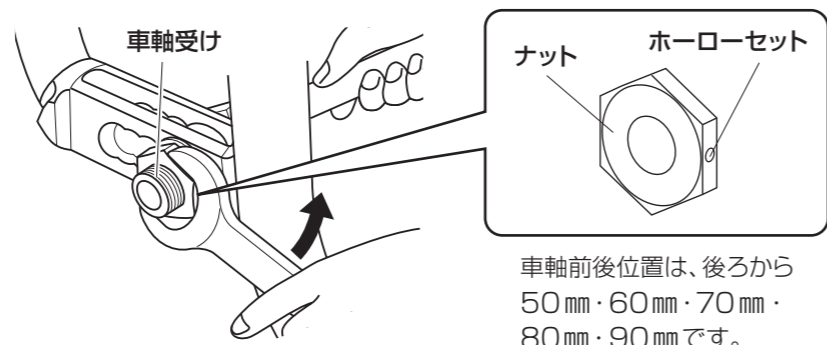
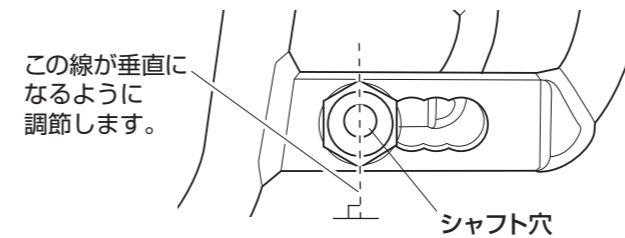
⚠危険	・使用者を乗せたまま調節を行うのは、絶対におやめください。 ・駆動輪車軸の前後位置は、車いすの重心バランスに重大な影響を及ぼします。 不安定な位置での使用は、転倒のリスクが増え、重篤な事故につながる恐れがあります。 ご使用者の障害や操作スキルに合わせ、適正な位置を選択してください。

⚠注意	駆動輪の前後位置調節は、販売店にご依頼ください。

1 駆動輪を取り外します。

2 車軸受け内側のナットを固定している
ホーローセットをレンチでゆるめます。

3 スパナ(30mm)2本を使用して、
車軸受け(外側)を押さえながら、
内側のナットを取り外します。

車軸前後位置は、後ろから
50㎜・60㎜・70㎜・
80㎜・90㎜です。

4 車軸受けの取付位置を決め、スパナ(30mm)
2本で取り付けます。
＊キャンバー付きの場合は、シャフト穴が外に偏っている側が真上を向くように車軸受けを取り付けます。

5 ナット横のホーローセットを、レンチで締め付けます。

6 駆動輪を車軸受けに差し込みます。

7 駆動輪ががたつかず、車軸受けがしっかり固定されていることを確認します。
さらに、駆動輪が抜けないことを確認します。

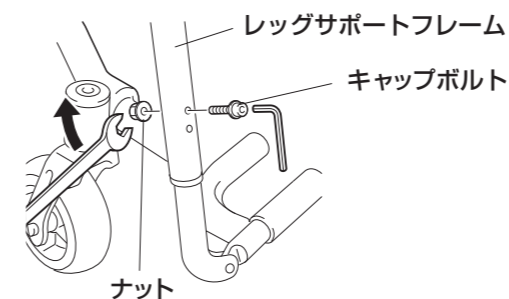
8 反対側の車軸受けの取付位置も同様に変えます。

＊次に駐車用ブレーキを調節してください。
(6ページ「ブレーキの調節」参照。)

フットサポートの高さ調節

使用者に合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。高さは、座角度の選択に応じて4～5段階に調節することができます。
＊左右とも同じ高さに調節してください。

1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

2 キャップボルトの頭をレンチで固定しながら、
反対側のナットをスパナなどで回して外し、
キャップボルトを取り外します。

3 フットサポートを適切な高さに
調節します。
＊キャップボルトを通す穴を、インナーパイプ上の穴から選択してください。
＊前座高によって、調節できる段数が異なります。

インナーパイプ

4 高さを決めたら、キャップボルトを差し込み、
反対側にナットを締め付けて固定します。

＊もう片側も同じ高さに調節してください。
＊フットサポートがしっかり固定されていることを確認してください。

バックサポートの張り具合調節

バックサポートにはテンション式背シートを装備しております。テンション式背シートの張り具合を適切に調節することにより、バックサポートが使用者の体にフィットし、疲れにくく安定した姿勢を保つことができます。

＊調節は使用者を乗せた状態で行ってください。
＊アウターシートを外して調節を行うと、効果を確認しやすくなります。

アウターシート　面ファスナー

1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

2 下から上の順に、ベルトの面ファスナーを貼り直してベルトの
張り具合を調節します。

＊アンカーサポート機能のついたクッションと合わせて使用すると、より姿勢保持の効果が得られやすくなります。
＊過度の調節(ゆるめすぎ、締めすぎ)はかえって姿勢を崩すことになりますので、十分注意して行ってください。
＊リハビリセラピストまたは販売員のアドバイスを受けられることをお奨めします。